

# 2023年3月期決算 IR説明会資料

2023年5月  
株式会社 極 洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

I .2023年3月期

P2～13

II .2024年3月期の施策・業績予想

P14～21

III.株主還元

P22～23

ご参考資料

P24～33

# I .2023年3月期

# 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比		2023年 3月期当初 通期予想	通期 予想比
			増減額	増減比率		
売上高	253,575	272,167	18,591	7.3%	275,000	99.0%
営業利益	6,392	8,105	1,713	26.8%	7,000	115.8%
経常利益	6,904	8,182	1,277	18.5%	7,000	116.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,634	5,782	1,147	24.8%	4,900	118.0%

## ➤ 前期比

- ・売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高を更新。

## ➤ 通期予想比（2022年5月13日公表）

- ・営業利益、経常利益、当期純利益は予想値超え。
- ・利益面では、鯉鮪セグメントが牽引。外食産業の回復を背景に、自社工場製品を中心とした加工品の販売が大きく伸長。

※2023年3月期通期連結業績予想数値は2023年3月27日付で修正、公表しています。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	前期比		2022年 3月末	2023年 3月末	前期比
資産の部				負債の部			
流動資産	99,527	114,202	14,675	流動負債	56,936	64,950	8,014
受取手形 及び売掛金	28,683	33,079	4,396	内、支払手形 および買掛金	9,950	8,563	△1,386
				内、短期借入金 (含むCP)	30,714	38,783	8,069
商品及び製品	44,997	52,620	7,622	固定負債	31,348	34,383	3,034
仕掛品	3,440	3,840	399	内、長期借入金	27,021	29,816	2,794
原材料及び貯蔵品	6,191	7,425	1,233	負債合計	88,285	99,334	11,049
その他	16,214	17,236	1,022	純資産の部			
固定資産	30,932	32,098	1,165	株主資本	39,072	43,736	4,663
有形固定資産	18,897	18,912	15	その他の 包括利益累計額	3,632	3,805	172
無形固定資産	350	348	△1	非支配株主持分	△530	△575	△44
投資その他の資産	11,685	12,837	1,151	純資産合計	42,174	46,966	4,791
資産合計	130,460	146,301	15,840	負債及び純資産合計	130,460	146,301	15,840

・売上高の増加に伴い、「受取手形及び売掛金」、「商品及び製品」が増加。

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	6,725	8,403	1,677
	減価償却費	1,835	2,264	429
	売上債権の増減 (△は増加)	4,482	△3,987	△8,469
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△12,822	△8,938	3,883
	仕入債務の増減 (△は減少)	952	△1,672	△2,625
	その他	△2,302	△2,313	△10
	<b>小計</b>	<b>△1,128</b>	<b>△6,243</b>	<b>△5,115</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△4,859	△2,299	2,560
	その他	△365	△39	326
	<b>小計</b>	<b>△5,225</b>	<b>△2,338</b>	<b>2,887</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP)の増減 (△は減少)	6,192	12,246	6,053
	長期借入れの増減 (△は減少)	570	△1,972	△2,543
	その他	△1,019	△1,262	△242
	<b>小計</b>	<b>5,743</b>	<b>9,011</b>	<b>3,267</b>

・売上高の増加により、「売上債権」が増加。

## 連結財務指標の推移

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
自己資本 (百万円)	31,821	32,718	40,382	42,705	47,541	4,836
有利子負債 (百万円)	58,023	55,173	51,174	58,121	68,973	10,851
総資産 (百万円)	114,673	111,184	116,331	130,460	146,301	15,840
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	4,621	6,313	7,097	6,539	7,042	502
自己資本比率	27.7%	29.4%	34.7%	32.7%	32.5%	△0.2ポイント
D/Eレシオ	1.9倍	1.7倍	1.4倍	1.5倍	1.6倍	+0.1ポイント
ROE	9.6%	6.3%	10.5%	11.2%	12.8%	+1.6ポイント
ROA	4.0%	3.2%	4.3%	5.6%	5.9%	+0.3ポイント

ROE：「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本\*」、 ROA：「経常利益÷総資産\*」 \*当期末と前期末の平均値

- ・利益剰余金の増加により自己資本が増加したものの有利子負債（短期借入金）の大幅な増加により、自己資本比率は微減。

## 戦略

### 食品事業の拡大

#### ➤ 組織変更【21年4月】

食品部門を業態別の組織に再編することで役割分担を明確化し、販売体制を強化。

#### ➤ KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co., Ltd.の工場完工【22年2月】

煮魚・焼魚、寿司種などの生食合わせて年間約7,000トンの供給できる海外基幹工場。  
日本のみならず、東南アジアや欧米などへの販売を拡大。



#### 事業を取り巻く環境

コロナ禍で  
消費スタイルが変化し  
市販用需要が高まる

世界的な和食  
需要の高まり

## 戦略

### 資源アクセスの強化

#### ➤ 国産陸上養殖サーモンの販売合意【22年1月】

三重県に建設中の陸上養殖場で生産するアトランティックサーモン  
25年に初出荷予定



第十一わかば丸

#### ➤ カツオを漁獲する海外まき網船「第十一わかば丸」初出港【22年8月】

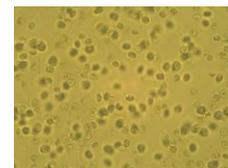
国際的競争力を有する大型船で、独自の調達力を強化

世界的な水産物  
需要増加

調達競争の激化

#### ➤ (株)イービス藻類産業研究所へ出資【22年8月】

同社が培養する微細藻類「ナンノクロロプシス」はEPAや葉酸などを  
豊富に含み、養殖魚の飼料への活用が期待される



ナンノクロロプシス

## 戦略 海外事業の拡大

## 「海外でつくり、海外で売る」方針へシフト

事業を取り巻く環境

コロナ禍で  
カントリーリスク発生  
(リスクの分散)

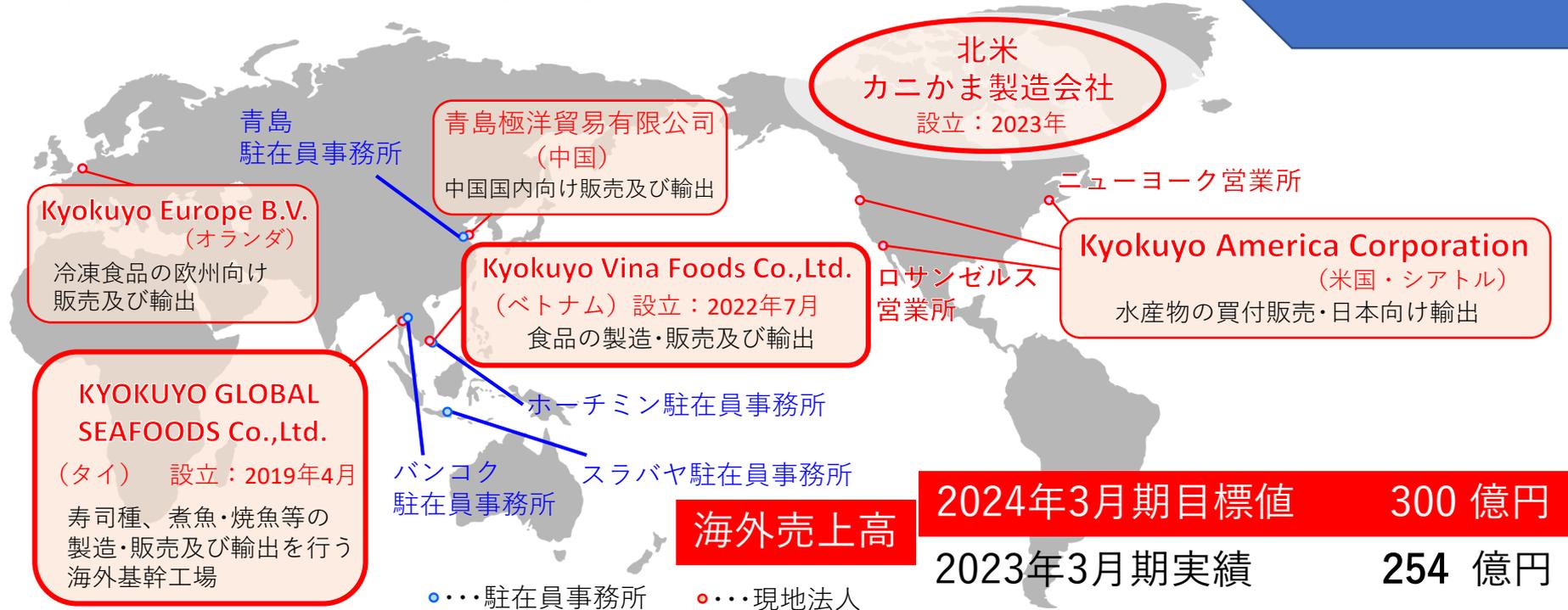
国内市場の縮小

### ▶ベトナムに子会社「Kyokuyo Vina Foods Co., Ltd.」設立【22年7月】

目的：コロナ禍で課題が顕在化した中国加工のリスク分散と、ベトナムおよび東南アジア向けの食品生産、販売

### ▶北米にカニかま製造会社設立【23年】

目的：米国向けカニ風味かまぼこの製造・販売



# セグメントの状況

## セグメント別売上高・利益

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2022年3月期	2023年3月期	前期比	2022年3月期	2023年3月期	前期比
水産 商事	120,796	122,783	1,986	5,150	2,683	△2,466
食品	96,883	108,328	11,444	1,046	936	△110
鯉・鮪	34,295	39,220	4,925	988	5,325	4,337
物流 サービス	1,176	1,361	185	218	203	△15
その他	423	473	49	△1,011	△1,043	△32
合 計	253,575	272,167	18,591	6,392	8,105	1,713

## ➤ 水産商事

《増収減益》

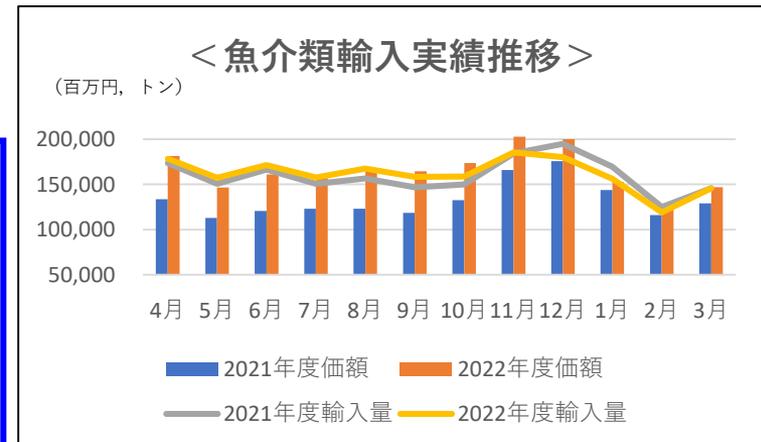
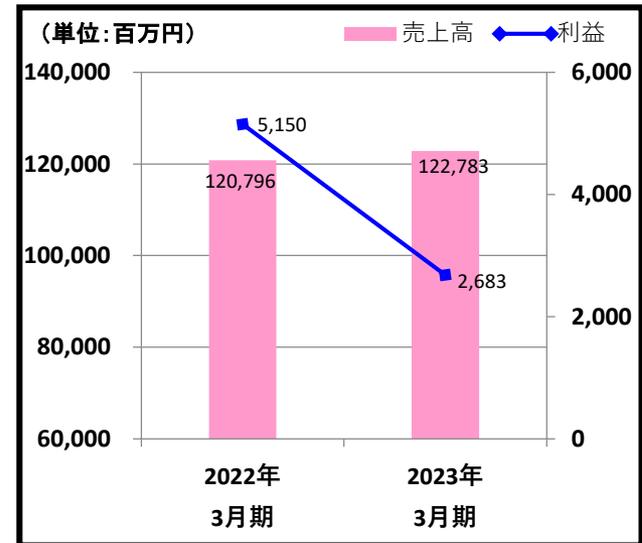
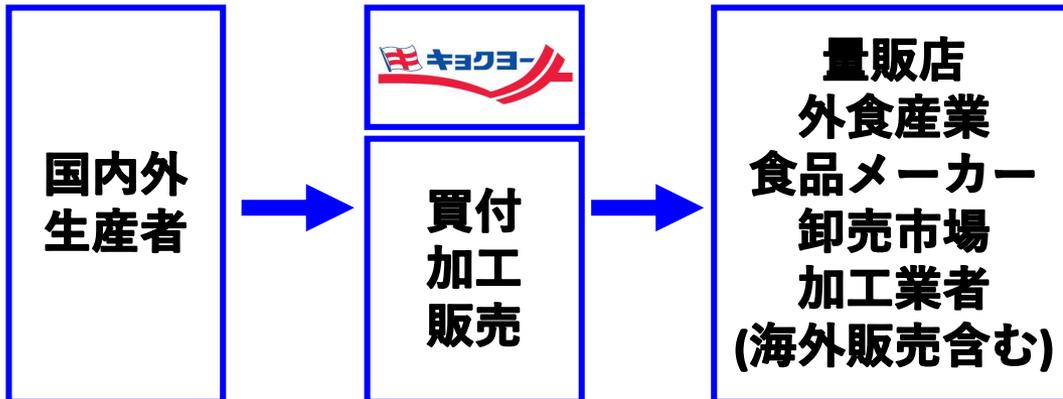
(国内販売)

- 水産相場の高値継続で、3Q以降は需要減退が鮮明になりサケ、エビ、カニの取扱いが減少
- 需要減少に伴う相場下落で、収益が大きく落ち込む

(海外事業)

- 円安の影響もあり、ホタテやマグロの販売が伸長
- 中国、米国の消費が本格的に復活し、現地販売が好調

※参考資料P.25「魚種別売上重量・単価推移」を記載しております。



出典：財務省貿易統計 ※2023年3月分は速報値  
 (報道発表資料：財務省貿易統計 Trade Statistics of Japan (customs.go.jp))を加工して作成

## ▶ 食品

《増収減益》

(業務用冷凍食品)

- 回転寿司ルートで寿司種の販売順調
- 量販店の惣菜売り場向けに、水産フライ、エビフリッターの販売伸長
- 収益面では、値上げ実施もコストの高騰続き、カバーできず

(市販用冷凍食品)

- 煮魚・焼き魚中心に販売拡大

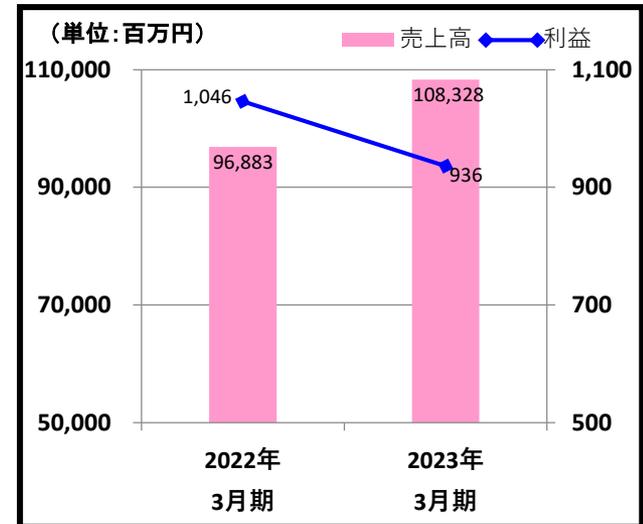
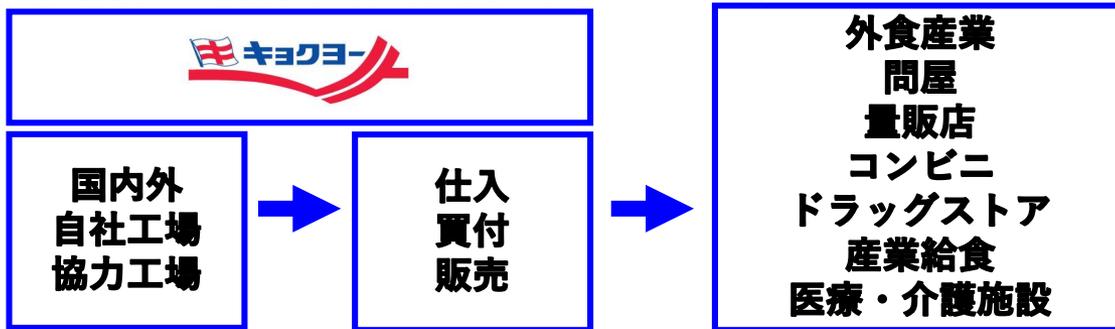
(缶詰)

- コスト上昇、サバ缶の一時休売で厳しかったものの、主力商品の集中的な販売で、売上は前年並み

(おつまみ・珍味)

- 消費者の志向が変化し販売数量が減少、原材料の高騰が収益を圧迫

※参考資料P.26「食品事業の売上高内訳」を記載しております。



寿司種



アジフライ



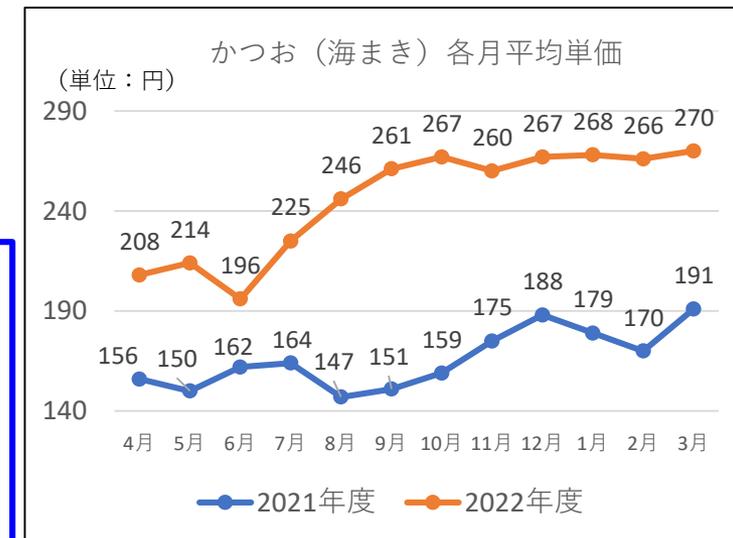
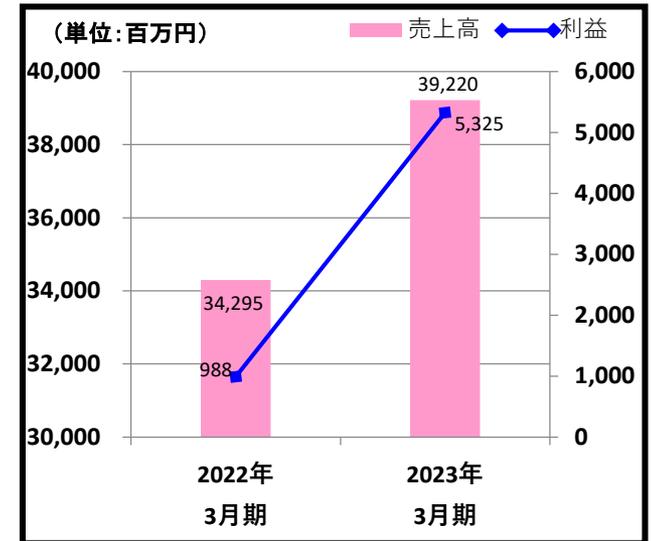
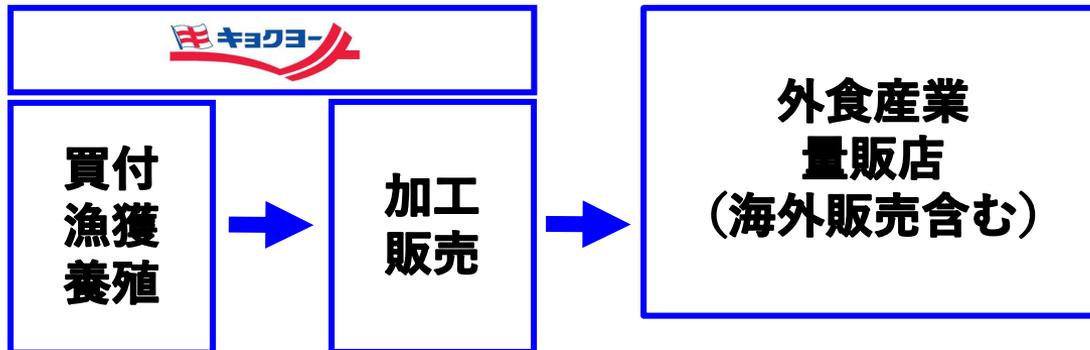
エビフリッター

## ➤ 鰹・鮪

《増収増益》

- 原料相場の高値が続くも、外食産業の回復で需要が力強く
- インドマグロの販売順調
- 自社工場を中心とした加工品が回転寿司ルート向けに大幅伸長  
(養殖事業)
  - 国産クロマグロは品質維持に努め、収益性を確保
- (海外まき網事業)
  - カツオ魚価上昇により売上・収益が拡大

※参考資料P.27～28「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」および「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」を記載しております。



出典：焼津魚市場取扱高対比表 (税抜)  
(焼津漁業協同組合)

## ➤ 物流サービス

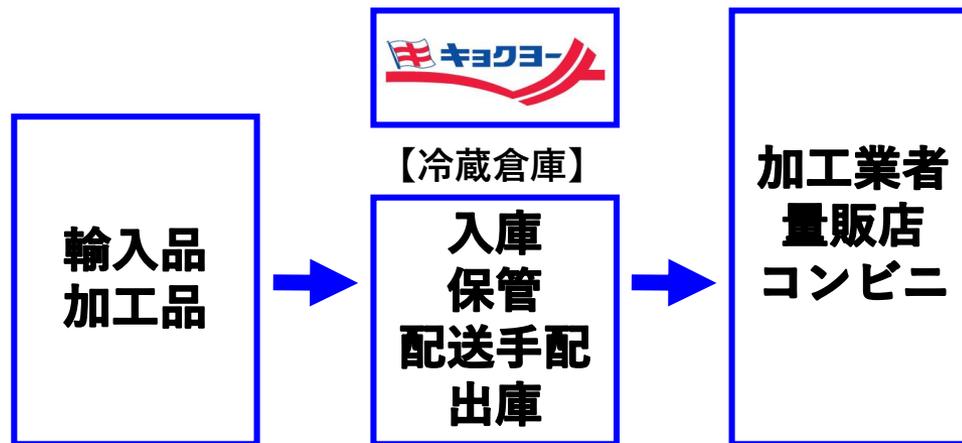
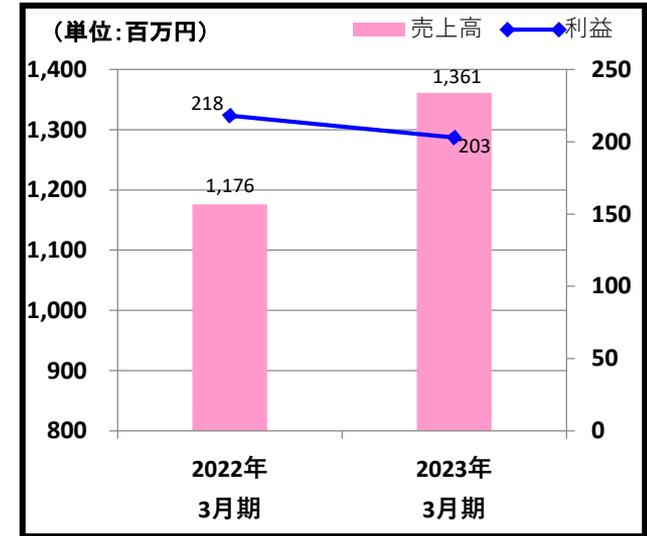
《増収減益》

(冷蔵倉庫事業)

- 荷動き低調で、庫腹率の高い状態が続き、保管料収入が増加
- 収益圧迫要因の電気料金の上昇に伴い価格改定も、収益は全体として減少

(利用運送事業)

- 外部取引先との取引拡大で売上伸長



冷蔵倉庫事業



利用運送事業  
(イメージ)

## Ⅱ .2024年3月期の施策・業績予想

- 2023年4月からコア事業を明確にしたセグメント構成に変更。

変更前	水産商事	鰹・鮪	食品	物流サービス
変更後	水産事業	生鮮事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生食事業 (寿司種など)</li> <li>・ 鰹鮪事業</li> <li>・ 養殖事業</li> </ul>	食品事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務用食品 (焼魚・煮魚・フライ製品など)</li> <li>・ 市販用食品 (冷凍・チルド食品、缶詰、おつまみ製品、健康食品)</li> </ul>	物流サービス

- セグメント変更と同時に、機動的な事業運営を図り、「高収益構造への転換」を加速させるため、水産・生鮮・食品の3事業に事業本部を設置。
- 事業本部による一元管理により、全体効率を追求した、収益性の高い体制を目指す。

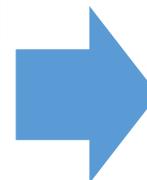
## ➤ 水産

### < 施策 >

調達力の強化により取扱い量を拡大

自社工場製品の拡販による収益性向上

「海外でつくり、海外で売る」ための生産拠点整備



### < 中計戦略 >

水産事業及び養殖事業  
の収益安定化

海外事業の拡大

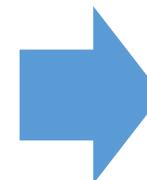
## ➤ 生鮮

### < 施策 >

生食商材を専門的に扱うことで事業運営を効率化

自社工場製品の拡販による収益性向上

養殖専門部署の設置により生産管理強化、養殖魚種の拡大



### < 中計戦略 >

食品事業の拡大

養殖事業の収益安定化

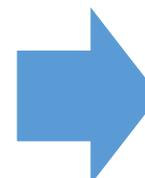
## ➤ 食品

### < 施策 >

自社工場製品の拡販による収益性向上

アイテム集約による工場の生産性向上

市場ニーズに合った商品投入のスピード向上



### < 中計戦略 >

食品事業の拡大

商品開発・ブランドの強化

食の楽しみへのこだわり

## ➤ 物流サービス

### < 施策 >

在庫量確保による売上の拡大

システム化により事業効率を向上



### < 中計戦略 >

財務基盤の強化

DXの推進

## < 中計戦略 >

### ➤ 執行役員制度の導入【23年4月】

- ・ 経営の意思決定及び監督機能と業務執行機能の分離により、経営の機動性を高める。
- ・ コーポレートガバナンスの強化を図るとともに、次世代の経営人材を育成。



ESG経営

人材基盤の強化

### ➤ 新人事制度の導入【23年4月】

平均年収は約2割、初任給は約3割の引き上げ

- ・ 社員が高い意欲とモチベーションを持って業務に取り組める会社を目指す。

# 設備投資実績・計画

	概要	2023年3月期 3月末実績	2024年3月期 計画
極 洋	生産工場関連	2億円	5億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	2億円	7億円
	計	5億円	14億円
関係 会社	生産工場関連	9億円	49億円
	まき網事業関連	8億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	2億円
	IT関連その他	0億円	3億円
	計	18億円	55億円
合計		23億円	69億円

## 主な投資案件

DX推進  
グループ内横断的システム導入

ベトナムの「Kyokuyo Vina Foods」  
および北米のカニかま製造会社の  
工場用地・建物

2022年8月に初出港した  
海外まき網船「第十一わかば丸」

# セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	セグメント利益
水産事業	153,000	5,500
生鮮事業	73,000	2,500
食品事業	73,000	1,700
物流サービス	1,000	200
その他	0	△1,400
合計	300,000	8,500

# 連結業績予想

	2023年3月期 実績	2024年3月期 連結業績予想 (中計最終年度)
売上高	2, 7 2 1 億円	3, 0 0 0 億円
営業利益	8 1 億円	8 5 億円
経常利益	8 1 億円	8 5 億円
営業利益率	3. 0 %	2. 8 %
経常利益率	3. 0 %	2. 8 %

# Ⅲ.株主還元

## 利益配分に関する 基本方針

株主に対する適切な利益還元を経営の重要な課題のひとつと位置付けており、企業体質の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を図るとともに、安定配当を継続しつつも、中長期的な利益成長による配当水準の向上を目指します。

## 優待品

### ■ 対象株主及び優待の内容

(1) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上3単元（300株）未満所有の株主様には、2,500円相当の当社製品を贈呈

(2) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された3単元（300株）以上所有の株主様には、6,000円相当の当社製品を贈呈

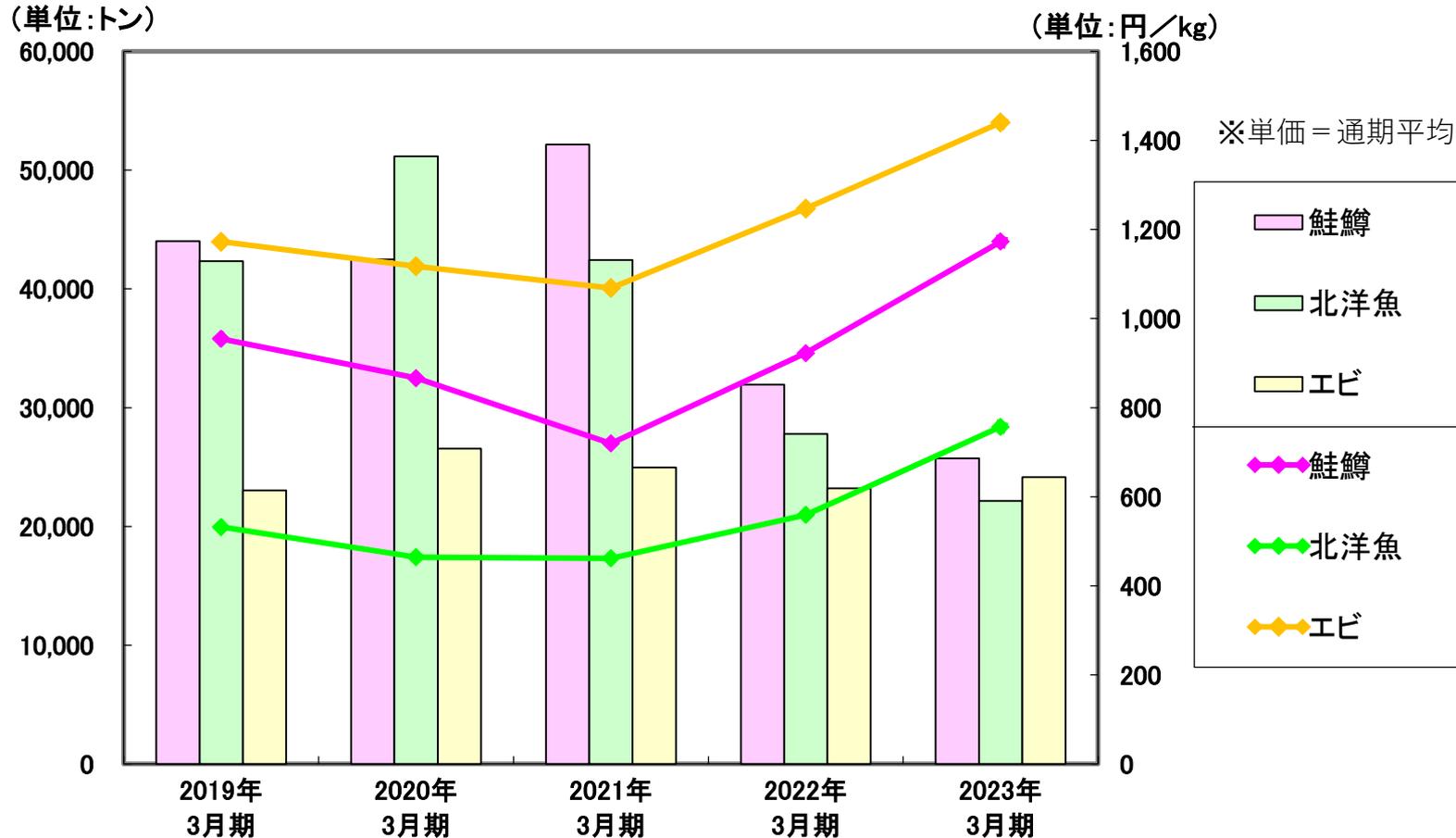
■ 贈呈時期 : 毎年7月予定

## 配当の状況

	1株当たりの 配当金
2019年3月期	70円
2020年3月期	70円
2021年3月期	80円
2022年3月期	90円
2023年3月期	100円予定 (普通配当90円) (記念配当10円)
2024年3月期 予想	90円

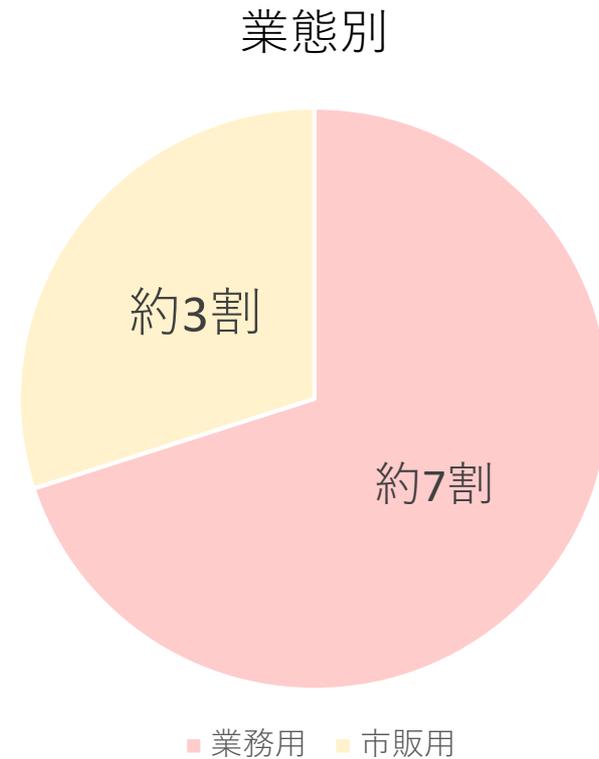
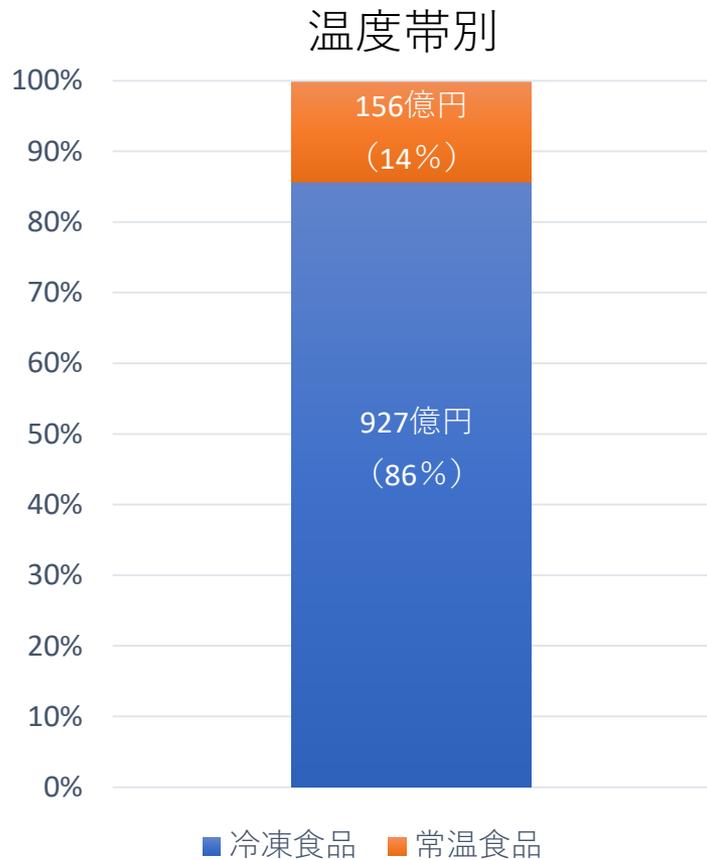
# ご参考資料

## 水産商事<個別> 魚種別売上重量・単価推移

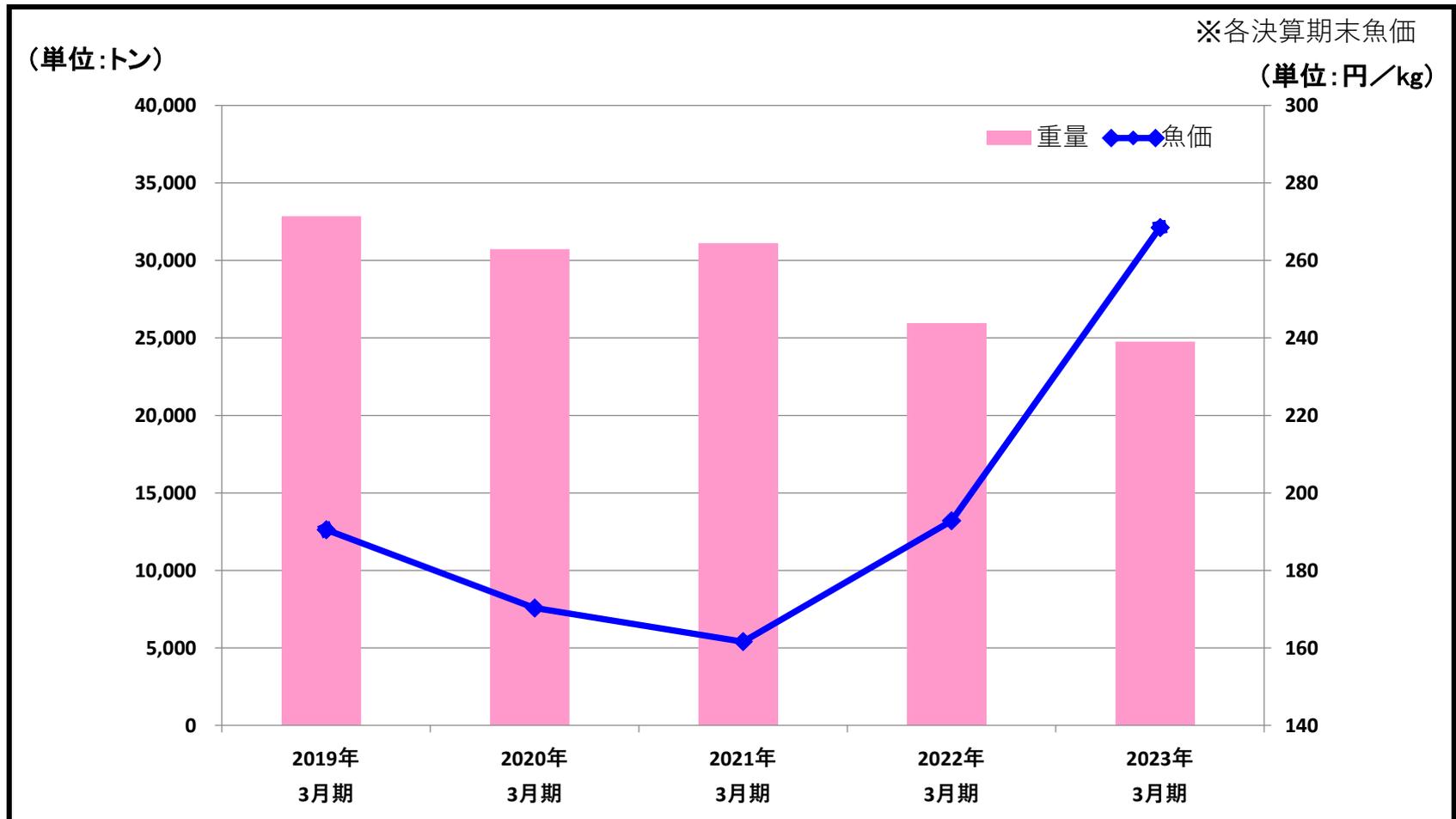


※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しています。これにより、有償支給取引については、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

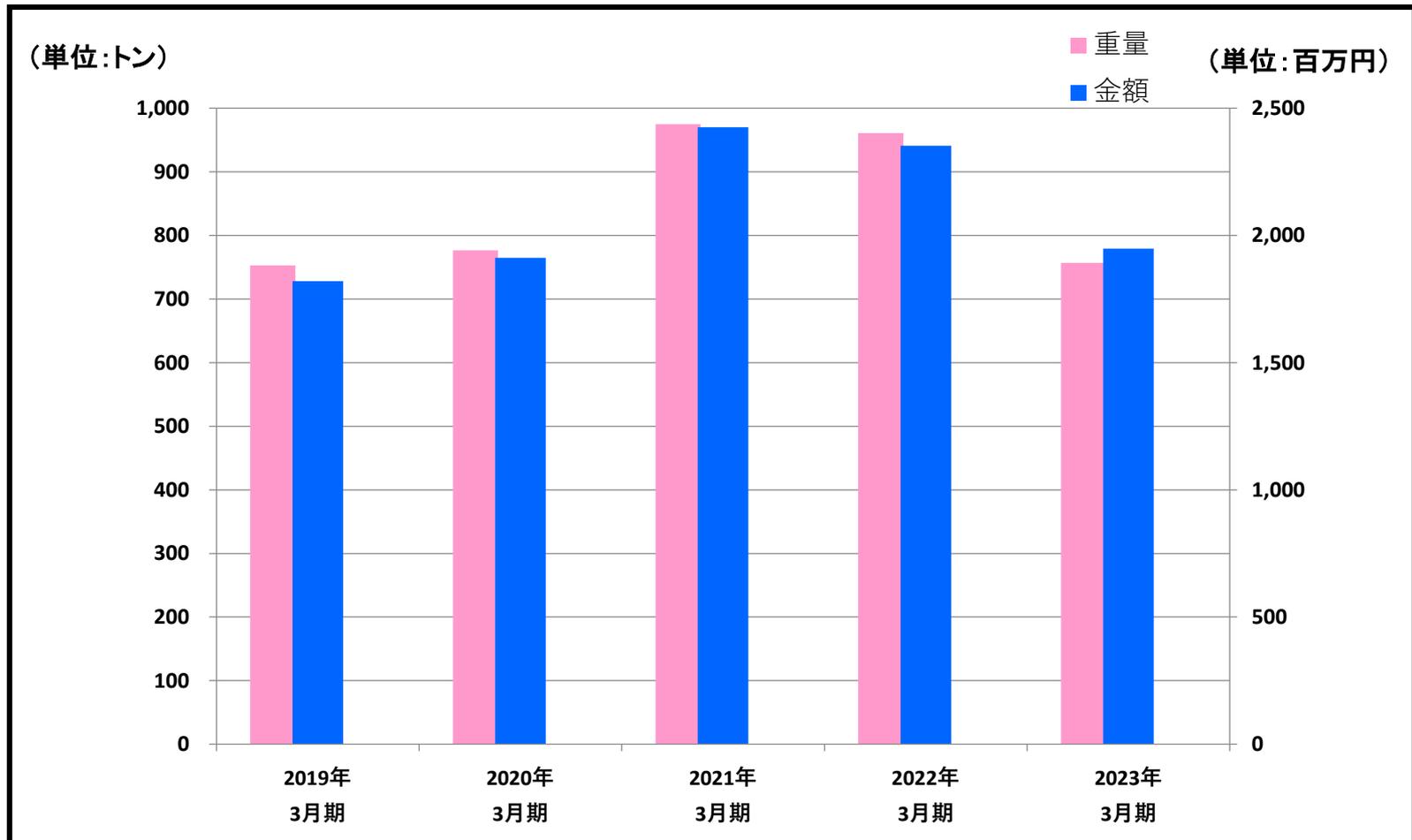
## 食品事業の売上高（108,328百万円） 内訳



## 鯉・鮪セグメント 海外まき網事業 水揚げ重量・魚価



## 鯉・鮪セグメント クロマグロ養殖事業 売上重量・金額



## ESGトピックス

### ➤ プラスチック削減目標設定

2030年までにプラスチック使用量を30%削減する（基準年：2019年、原単位）ことを目標に、加工製品を入れる箱を発砲スチロールから段ボールに変更するなどの材質変更や、ノントレー包装、ダウンサイジングを中心に取り組み。

### ➤ ESG投資指数の構成銘柄「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に選定

ロンドン証券取引所グループ企業・FTSE Russell社が提供する、ESGの対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映する指数

### ➤ 日本カヌー連盟への協賛

「自然との共生」および「水資源の大切さ」を社会に訴える環境保全活動の一環として日本代表選手や日本カヌー連盟の活動を応援、サポート。また、競技場へ来場された方々にご参加いただき競技コース付近の清掃活動「クリーンリバー活動」を実施。



### ➤ 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同【22年5月】

## ESGトピックス

### ➤ (株)イービス藻類産業研究所へ出資【22年8月】

同社が培養する「ナンノクロロプシス」は、微細藻類の一種で、太陽光と水とCO2による光合成により、たんぱく質や脂質を生成。  
その光合成によりCO2を吸収するなど、生産過程が低環境負荷。



「ナンノクロロプシス」培養施設

### ➤ カツオ漁獲の海外まき網船「第十一わかば丸」初出港【22年8月】

水産資源の持続性に配慮し、持続的かつ安定的な原料調達を実現。  
船首形状の改良などにより燃油消費量の削減を図るなど、環境に配慮。  
船の大型化や設計の工夫などにより、船員の労働・住居環境を改善。



第十一わかば丸

### ➤ SeaBOSキーストーン・ダイアログに出席【22年10月】

世界の水産大手企業と科学者が持続可能な水産資源の活用・健全な海洋および地球環境の実現に向け、課題抽出・目標設定を行うSeaBOS会議に井上社長が出席。

## ➤ 連結業績推移

単位：百万円

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	256,151	262,519	249,197	253,575	272,167
売上原価	232,446	238,274	223,620	225,558	241,139
売上総利益	23,705	24,245	25,576	28,016	31,027
販売費および 一般管理費	19,873	21,326	20,918	21,624	22,921
営業利益	3,831	2,918	4,657	6,392	8,105
経常利益	4,434	3,608	4,879	6,904	8,182
特別利益	125	68	1,676	50	353
特別損失	570	664	934	229	132
親会社株主に 帰属する当期 純利益	2,914	2,037	3,838	4,634	5,782

## ➤ 連結財務指標の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
純資産(百万円)	31,996	32,593	39,975	42,174	46,966
有利子負債 (百万円)	58,023	55,173	51,174	58,121	68,973
在庫回転日数	46.0日	45.9日	46.7日	55.5日	65.5日
自己資本比率	27.7%	29.4%	34.7%	32.7%	32.5%
ROE	9.6%	6.3%	10.5%	11.2%	12.8%
ROA	4.0%	3.2%	4.3%	5.6%	5.9%
1株当たり 純資産(円)	2,941.26円	3,046.26円	3,753.90円	3,969.73円	4,436.27円
1株当たり 当期純利益 (円)	269.63円	188.53円	356.95円	430.83円	539.10円

- ROE：「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本\*」
- ROA：「経常利益÷総資産\*」
- 在庫回転日数：「商製品在庫高\*÷売上高×365」
- 自己資本比率：「自己資本÷総資産」

\*当期末と前期末の平均値としている。

# 見通しに関する注意事項

本資料は、2023年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としております。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極洋 経営管理部IR室 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。